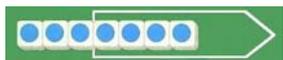


## 授業の具体的展開例

T：この問題でわかっていることは何ですか。  
 C：みんなで7人いて男の子が4人います。  
 T：では、たずねていることは何ですか。  
 C：女の子は何人かをたずねています。  
 T：では、ブロックを用意してください。  
 問題のことについて、自分でお話しながら、ブロックを動かしてみましょう。

～机間指導～

T：ブロックをどのように動かして、女の子の数をを見つけましたか。黒板で発表してください。  
 C1：ぜんぶで7人いて、男の子は4人だからブロックを4つ、動かします。そしたら残ったブロックが女の子になります。  
 C2：ブロックを7個並べます。男の子が4人なので、4個のブロックをかためて、○でかこみます。  
 残ったブロックが女の子で3人になります。



T：絵では、かたまっていない男の子を4人まとめて考えればいいのですね。

## 教材・教具



子どものシルエットを完全な影にしました。



## 板書例

めあて ぶろっくをうごかして、しきをかがえよう。



わかっていること①  
 みんなで 7にいます。  
 わかっていること②  
 おとこのこは 4にんです。  
 たずねていること

おんなのこは なんにんですか。

しき  $7 - 4 = 3$   
 こたえ 3にん **のこり**→ひきざん



わかっていること①  
 ぜんぶで くじが 10 ぽんです。  
 わかっていること②  
 はずれは 6ぽんです。  
 たずねていること

あたりは なんぽんですか。

しき  $10 - 6 = 4$   
 こたえ 4ぽん

## 「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、これまでの**残りの数を求める**考え方をもとにして、**部分の数を求める**ためにひき算を用いることができることを、数図ブロックの操作を通して理解させ、ひき算を適用できる場を広げていく。

1年生の1学期で、考えを文字で表すことは難しいので、声に出しながらブロック操作をさせて、その様子を評価する。

数図ブロックの操作の交流では、多くの児童に発表させ、個々の考えや理解の状況を把握する。

また、学習のまとめとして、自分の考えと友達の発表とを比べることで、理解を深めさせたい。

## 「活用」の力を育てる評価の視点

本時においては、まず問題文から「分かっていること」「たずねていること」を読み取らせることが大切である。その上で、数図ブロックの操作を説明することを通して、立式できる力を付けていきたい。

「活用」の力を評価する具体的な視点として

- ① 「わかっていること」「たずねていること」を正確に読み取って、数図ブロックの操作をしながら、式の意味を説明することができる。
- ② 数図ブロックを操作しながら、ひき算で立式することができる。
- ③ 友達の発表を聞き、理解することができる。
- ④ 発表を聞いても、理解することができない。

が考えられる。

さらに学習のまとめでは、本時を振り返り、感想や友達の発表を聞いて思ったことなどを書き、交流し合う中で、自己を見つめ直し、学習内容を再確認できるようにしたい。

評価問題

## ブロック操作の場面



HOME

本時の流れへ